

▶ スコアボード ▶

第41回 横浜少年サッカー大会 市長杯 開会式

1月9日(土) 10:00~ 横浜スタジアム

YFAサッカーフェスティバル

1月11日(祝) 横浜スタジアム

8:50~ ガールズサッカー教室

10:35~ 親子サッカー教室

11:40 社会人交流戦 若葉台FC vs イレブンスターズ

13:05~ 中体連U14 vs ジュニアユースU14選抜

14:20~ 高体連 横浜選抜U16-A vs B



発行 一般社団法人横浜サッカー協会
編集 同 広報委員会
〒222-0033
横浜市港北区新横浜2-6-3
DSM新横浜7F
TEL(045)474-4315 FAX474-4316
http://www.yokohama-fa.or.jp
印刷 神奈川新聞社
〒231-8445 横浜市中区
太田町2-23
TEL227-0736 FAX227-0785

第47回 国際チビッ子サッカー大会

優勝

L-1 バディー

L-2 ライフネット

LL-1 バディー

LL-2 霧が丘

SL JFC FUTURO 女子の部 すずき野



明けましておめでとうございませう。皆様には、新しい年に向けての抱負を胸に秘めて本年の門出をお祝いされたことと存じます。

横浜みなとみらいスポーツパークは今年3月末をもって営業が終了します。それに伴って、事務所を年初より新横浜に移しました。

新春のご挨拶

た。交通のアクセスが良く、またマリノスタウンと隣接する利便性の高い地を離れ

横浜サッカー文化の推進へ

横浜サッカー協会 会長 氏平 祐輔

感じました。今後U15、U18を経て順調に発展することに力を注ぎたいと存じます。

るのは残念でありましたが、年頭からの予定でしたので、新しい場所でも一般社団法人としての活動を工夫していきたいと存じます。特にサッカーを通して横浜市のスポーツの健全な発展に努め、サッカー文化の定着に向けて活動を続ける所存です。

2016年を迎えて

2014年から横浜国際チビッ子サッカー大会に少女の部を設けました。自己のスキルを効果的にチームプレーに結びつけたチームが多く、横浜の女子サッカーの将来の明るさを

かさねて申し上げますが、今後もサッカーを通して、横浜の街にふさわしいスポーツ文化の定着に努めたいと存じます。皆様の一層のお力添えをお願い申し上げます。

第47回横浜国際チビッ子サッカー大会は、平成27年8月30日に開幕し、各クラスで予選リーグ、決勝トーナメントを行い、12月6日のLLの部、SLの部の決勝戦で約3カ月に亘る熱戦の幕を閉じた。Lの部は、今年から実施された、こくみん共済U12後期サッカーリーグを兼ねた予選リーグを行った。

その結果、L-1の部決勝戦ではバディーSCがJFC FUTUROを2-0で倒し優勝した。また、L-2の部ではライフネットSCが上星川SCをPK戦で下し優勝した。LL-1の部ではバディーSCが、LL-2の部ではJFC FUTUROが優勝し、少女の部ではFCすずき野レディースが優勝した。各クラスの熱戦の結果は次の通り。

◎SLの部

☆3位決定戦

大豆戸 7-2 レトリ台
F C A F C
☆決勝戦
J F C 1-0 S C H
FUTURO F C
◎LL-2の部

優勝

第23回カトレア杯少女サッカー大会

平成27年度・第23回カトレア杯少女サッカー大会が9月12日、玄海田公園運動広場で9チームが参加して行われた。大会は、参加9チームを3ブロックに分け、それぞれ3チームによる予選リーグを戦った。予選リーグの結果から各リーグの1位チーム、2位チーム、3位チーム同士による順位決定リーグ戦を行い、順位を決めた。

SHガールズ、横浜ウインズ、FCすずき野レディースが1位リーグの順位決定戦を行い、FCすずき野レディースが1勝1分けで優勝した。

声かけが大切

すずき野 福井ひばり

カトレア杯でいろいろな事を学びました。

1つ目は仲間の大助です。私がミスをしてピンチになった時や、パスの出所がなく、困っていた時にチームメイトがフォローしてくれ、ピンチをしのぐことができた。仲間の大切さという事を学びました。

2つ目は声かけです。ピンチの時やチャンスの時、声かけというの大切なんだと感じました。



今回のカトレア杯で学んだことを生かし、これからも色々な大会で良い成績を取ってきたいと思います。

2015年度NHK杯 8人制大会

横浜F・マリノスが制覇

2015年度NHK杯8人制少年サッカー大会兼県大会

横浜市予選(NHK横浜放送局、横浜サッカー協会共催)が、10月31日、11月1日の2日間に行われ、みなとみらいスポーツパークで行われた。この大会は18区の5年生の代表チームによる8人制の大会で、12月に行われる県大会の横浜市代表を決める予選会を兼ねている。

1日目は3チーム6ブロックで1次リーグを行い、上位1チームが2次リーグに進出、2日目は2次リーグと順位決定戦が行われた。

結果、決勝戦は4対1でマリノスが、3位決定戦では1対0でFCカルバが、5位決定戦では4対1で六浦毎日SSが、勝利した。

総合順位は次の通り。

優勝・横浜F・マリノス
準優勝・美玉マリ(西区) 準優勝・美玉マリ(西区) 準優勝・美玉マリ(西区)

横浜サッカー協会 事務所を移転しました

一般社団法人横浜サッカー協会は、12月23日に事務所を移転しました。

(移転先)

横浜市港北区新横浜2-6-3

DSM新横浜7F

〒222-0033

電話 045-474-4315

FAX 045-474-4316



横浜市営地下鉄「新横浜」駅 徒歩3分
JR横浜線「新横浜」駅 徒歩4分

熱い声援を受け

キッズ大会

今年度、二回目となるキッズ大会「Goal23」が9月19日、しんよこフットボールパークなどで開催された。回を重ねるごとにキッズメンバも増えてきている。元気いっぱい、ピッチを駆けまわる姿に保護者たちから熱い声援が送られていた。

ブリス発行日の変更

2015年12月1日号の発行は、2016年1月1日号に変更して発行しました。今年度は、4月1日号、7月1日号、10月1日号の発行となります。

ハーフタイム

昨年は、ラグビーが脚光を浴びた年だった。ワールドカップで初勝利を挙げ、その後予選で3勝した日本代表の活躍。みなさんご存知の五郎丸人(五郎丸)が、今年行われるリオデジャネイロオリンピックで初めて実施される7人制ラグビーには男女ともに出場が決定している。女子7人制ラグビーのサクラセブンスは女子ラグビーの存在すらあまり知られていなかったと思う。何かの記事で、ある選手が「ラグビーをやっている、と恥ずかしくて言えなかったけど、これからは堂々と公言できる」と書いてあったのを読んだ。かつてのなでしこジャパンもそうであつたのではないだろうか？ラグビーはサッカーがルーツ。どの世界でも最初の1歩は険しいけれど、頂点を目指して活躍してもらいたい。輝けサクラセブンス！ (河)



霜田正浩氏のプロフィール

1967年 2月10日 東京都豊島区生まれ
1985年 3月 都立高島高等学校卒業
1985年 4月～
1988年 2月 ブラジルサッカー留学（3年）
1988年 4月 フジタ工業サッカー部（現湘南ベルマーレ）
1990年 3月 京都紫光クラブ（現京都パープルサンガ）
1993年 3月 横河電機サッカー部（現横河武蔵野サッカークラブ）
1994年 3月 大塚製薬ヴォルティス徳島（現徳島ヴォルティス）トップチームコーチ
1997年 2月 京都パープルサンガユースチーム監督
1998年 2月 同 Jr ユースチーム監督
1999年 2月 同 強化部 部長補佐
2001年 2月 FC東京 強化部 部長代理
2006年 2月 同 トップチームヘッドコーチ
2006年 8月 同 退任
2006年 10月 ボルトガル・スペインコーチ留学（2カ月）
2006年 11月 YSCC（関東リーグ優勝）監督地域リーグJFL 参入戦
2007年 2月 ジェフユナイテッド千葉 トップチームコーチ兼サテライト監督
2008年 2月 同 トップチームヘッドコーチ
2008年 9月 同 リザーブズヘッドコーチ
2009年 2月 財団法人日本サッカー協会 代表チーム部 現在に至る
2010年 2月 ■指導者資格
1995年 日本サッカー協会公認C級ライセンス（現B級ライセンス）取得
日本サッカー協会公認B級ライセンス（現A級ライセンス）取得
日本サッカー協会公認S級ライセンス取得
1996年
2004年

横浜サッカー協会は11月3日、横浜開港記念会館講堂で日本サッカー協会の霜田正浩強化担当技術委員長を招き、「横浜から世界に通じる指導法 日本が行うべき育成年代の指導法」世界からの逆算」と題した指導者向けの講演会を開催した。

講演会で霜田正浩委員長は、日本代表チームをどうやって強化しているか、コーチがどう考えているか、取り組みでいるかといった日本代表チームへの指導方法についての紹介と、それを踏まえて地域の子供たちを指導している指導者がどう取り組んだら世界に通じる選手を育てられるかについて語った。

「U-15からU-22までの全てのカテゴリーで日本代表が選ばれているが、全てのカテゴリーの戦う相手は外国人である。15歳の時から選手に世界と戦う経験と意識を持たせることを教えてきている。監督がどんな人かどんな国の人かは関係ない。戦う選手が日本人なのである。

戦う気持ちを持たせること 強いメンタリティーを育てる

Ｊリーグができてから選手育成の環境が良くなってきているが、日本代表の多くは地域のクラブから出てきている。子どもたちは、どこでどうプレイするか分からないし、また、日本にはどの地域からでも素晴らしい選手が出てくる。

サッカーというスポーツは8歳であるがジュニアユースであるがゴールをしなければ勝てないスポーツなので、まずは点を取る、点を取らないことが最重要である。常にどういった時でも、どういった相手でも、どういった選手も、ゴールをめざすことが大事であるということこそ是非、子どもたちに強く伝えてほしい。

今、メディアでは日本代表が目指すポイントとして、縦に早い攻撃をキヤッチフレイズにしている。縦に早く攻撃できることに越したことはない。縦に行けなければ横になく、横につなげなければ後ろに返す、その繰り返しである。

ボールを相手から奪わなければ攻撃につながらない。良い攻撃をしながら良い守備の準備をする。良い守備から攻

撃につなぐ。そのサイクルが永遠につながっているチームが良いチームだ。

日本のプレイヤーには、まだボールを奪い取るという意識が決定的に足りない。子どもの時から自分が持っているボールは奪われない。相手が支配しているボールは必ず奪い取る。ルーズボールは必ず自分のものにする。こうした意識付けをサッカーを始めた時から持たせてほしい。

たとえば、身体が小さな4年生の子どもが大きな6年生の子どもにボールを取りに行く。10回やって10回ともだめでも、小さな子が大きな子に向かっ行く、こうしたメンタリティーを養うことが大事であり、子どもの時から育ててほしい。

トップレベルの選手は、トップレベルになってトップレベルの感覚が養われたのではなく、子どもの時から試合で積み上げてきたものだ。トップレベルの選手が世界の大会で相手のボールを奪いに行き、かわされた時と4年生の子どもが地域の大会でボールを奪いに行き、かわされた時のどちらのリスクも同じであるが、こうした戦う、そしてボールを奪うという気持ちを子どもたちから培ってほしい。

心の底から勝ちたいという強い気持ちをもったプレイヤーを育てることが大切である」と強調された。

横浜から世界に通じる指導法 日本が行うべき育成時代の指導法 世界からの逆算

日本サッカー協会
技術委員長 霜田正浩氏が講演

横浜トレセンBが快挙 第28回横浜招待少年サッカー大会

第28回横浜招待少年サッカー大会が12月12日、13日の日程でマリノスタウン、みなとみらいスポーツパークで開催され熱戦が繰り広げられた。今大会は横浜と友好関係にある都市のトレセンチームとマリノス杯で優勝した都筑区選抜を招待し、予選は参加15チームを5チームずつ3ブロックに分け8人制によるリーグ戦を実施した。その後、予選リーグの上位と中位と下

位に分け順位決定リーグ戦を行った。決勝は、唯一の5年生チームの横浜トレセンU-11が前年度優勝の川崎トレセンを下し、優勝した。最終結果は次の通り。

◎優勝
横浜T.C・U11
◎準優勝
川崎T.C
◎3位
横浜T.C・B
横須賀T.C



◎5位
相模原T.C

金沢ガールズが制覇 第2回すずらん少女サッカー大会

第2回すずらん女子サッカー大会は、11月29日に玄海公園で開催した。

都筑区選抜が優勝 第18回区選抜大会

8月22、23、29日の3日間、第18回横浜市区選抜少年サッカー大会 横浜F・マリノス杯が18区の選抜チームによるトーナメント戦で行われた。決勝、3位決定戦は日産フィールド小机競技場で行われ、都筑区が優勝した。

同大会は、10チームが参加、8人制のトーナメント戦で行われた。2回戦以降は決勝戦も含め4試合がPK戦という接戦となった。コイントスの結果、金沢ガールズが優勝した。準優勝は、SHガールズ、三位は、旭ガールズ、緑ビクシズ。

なお、同大会には女子中学生が会場設営から副審まで協力し、横浜女子サッカー発展に向けて一丸となった運営で、盛り上がりを見せていた。

結果は次のとおり

準決勝	都筑区	磯子区
2-1		
金沢区	戸塚区	
4-3		
3位決定	戸塚区	磯子区
3-2		
決勝	都筑区	金沢区
4-1		

ねんりんピック山口 横浜シニアが参加



今年10月、山口県で開催された第28回全国健康福祉祭やまぐち大会（ねんりんピック「おいでませ！山口2015」）には、政令都市・横浜市中から横浜シニア60を主として、各チームから補強メンバーを加えて横浜市の代表として参加しました。

市代表は主戦場である山口市の維新百年記念公園陸上競技場に於いて、埼玉県・熊本県・大阪府の各代表チームとの試合に奮戦しましたが、結果が伴わず、不振な成績に終ってしまいました。

決勝進出チーム 決まる マスターズ

今回で29回を迎えた市民マスターズ大会は、40の部・3グループ（16チーム）、50の部・3グループ（17チーム）で昨年4月から始まり、平成28年1月末には決勝トーナメントを終え、優勝チームが明らかに。なお、総合順位決定戦は3月末まで続く。決勝トーナメントは各グループによる予選リーグを勝ち抜いた各グループの上位2チーム、計6チームにより戦われます。その決勝トーナメント進出したのは、次のチーム。

40の部は、横浜シニア、横浜OB、Kクラブ、フォルテSC、Jクラブ、翠風クラブ、の6チーム。50の部は、神奈川40シニア、F・神工OB50、Kクラブ50、横浜シニア50、いわさき54、県庁シニアの6チームである。準決勝・決勝はいずれの部もニッパツ三ツ沢球技場で開催予定である。

法人会員一覧

横浜マリノス(株)
神奈川新聞社

(株) 横浜シミズ
横浜食品開発(株)
JFE東日本ジーエス(株)
(有) マルイシエ芸
(株) 横浜アーチスト